

## 令和7年度第1回宮城県職業能力開発審議会議事録

日時：令和8年1月26日（月）午後1時15分から

場所：宮城県行政庁舎4階 特別会議室

委員：《 対 面 》 齋藤委員、鈴木委員、小野委員、後藤委員、小林委員、田邊会長、  
谷垣委員、野口委員、佐々木委員、佐藤特別委員  
《 欠 席 》 藤田委員、熊谷委員

<b>星副参事</b>	<p>それでは、定刻になりましたので始めたいと思います。本日はお忙しい中御出席いただきありがとうございます。司会を務めさせていただきます産業人材対策課の星でございます。よろしくお願いいたします。</p> <p>ただ今から、令和7年度第1回宮城県職業能力開発審議会を開会いたします。本審議会は、職業能力開発促進法第91条、宮城県職業能力開発審議会条例に基づき設置しているもので、県の職業能力開発計画その他職業能力の開発に関する重要事項を調査審議していただくこととなっております。委員の構成は条例第2条に基づいた構成となっております。任期は令和6年7月1日から令和8年6月30日までとなっております。</p> <p>本日の会議はお手元の会議次第により進行させていただきたいと存じます。それでは開会に当たり、宮城県経済商工観光部副部長の島瀬より御挨拶を申し上げます。</p>
<b>副部長</b>	<p>経済商工観光部副部長の島瀬でございます。本日はお忙しい中、また大変お寒いところ、本審議会に御出席いただきましたこと、初めに厚く御礼を申し上げます。改めまして、皆様方には日頃から本県の職業能力開発行政につきまして、多大な御支援、御協力をいただいておりますこと、厚く御礼を申し上げます。</p> <p>県におきましては、県政運営の基本的指針である「新・宮城の将来ビジョン」におきまして、ものづくり産業等の発展を産業施策の柱と位置付けております。本格的な人口減少社会が到来しているわけですが、今後、地域経済・社会の持続性を確保し、県内産業の成長を促していく上で、産業人材の育成・確保というのは極めて重要な課題であると認識しております。</p> <p>このため、令和4年1月に本審議会で答申いただき策定しました「第11次宮城県職業能力開発計画」に基づきまして、富県宮城を支える県内産業の持続的な成長促進のための職業能力開発の施策に取り組んでいるところでございます。</p> <p>本日の審議会では、その取組状況や事業実績、数値目標の達成状況について</p>

	<p>て委員の皆様方に御説明をさせていただくこととしております。あわせまして、宮城県立高等技術専門校の再編整備の進捗状況につきましても御報告を申し上げたいと考えております。</p> <p>限られた時間ではございますけれども、委員の皆様方から忌憚のない御意見を賜りますようお願いを申し上げます。簡単ではございますが開会の挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。</p>
<b>星副参事</b>	<p>ありがとうございます。それでは本日御出席いただいております委員の皆様を御紹介させていただきます。</p> <p>労働者代表といたしまして、J R総連宮城県地域協議会事務局長、齋藤友洋様です。</p>
<b>齋藤委員</b>	<p>よろしくお願い致します。</p>
<b>星副参事</b>	<p>日本労働組合総連合会宮城県連合会副会長、鈴木伸様です。</p>
<b>鈴木委員</b>	<p>よろしくお願い致します。</p>
<b>星副参事</b>	<p>事業主代表といたしまして、小野リース株式会社代表取締役社長、小野明子様です。</p>
<b>小野委員</b>	<p>よろしくお願い致します。</p>
<b>星副参事</b>	<p>次に学識経験者といたしまして、宮城県職業能力開発協会会長、小林嵩様です。</p>
<b>小林委員</b>	<p>よろしくお願い致します。</p>
<b>星副参事</b>	<p>公立大学法人宮城大学名誉教授、一般社団法人不動産証券化協会フェロー、田邊信之様です。</p>
<b>田邊会長</b>	<p>どうぞよろしくお願い致します。</p>
<b>星副参事</b>	<p>独立行政法人国立高等専門学校機構仙台高等専門学校総合工学科准教授、谷垣美保様です。</p>

谷垣委員	よろしくお願ひします。
星副参事	学校法人東杜学園理事長、国際マルチビジネス専門学校校長、野口和江様です。
野口委員	よろしくお願ひいたします。
星副参事	独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構宮城支部長、宮城職業能力開発促進センター所長、佐々木祥英様です。
佐々木委員	よろしくお願ひいたします。
星副参事	特別委員の宮城労働局職業安定部訓練課長、佐藤雅彦様です。
佐藤特別委員	よろしくお願ひいたします。
星副参事	本日、藤田真弓委員、熊谷友紀委員におかれましては、所用により御欠席の連絡をいただいております。 続きまして事務局の職員を紹介させていただきます。宮城県経済商工観光部副部長の島瀬でございます。
副部長	どうぞよろしくお願ひいたします。
星副参事	産業人材対策課長の熊谷でございます。
熊谷課長	よろしくお願ひいたします。
星副参事	改めまして、副参事兼総括課長補佐の星でございます。よろしくお願ひします。 なお本日は、各高等技術専門校及び障害者職業能力開発校から校長が出席しております。 それでは議題に入る前に定足数の報告をいたします。本日は特別委員を除いた委員総数11名のうち、9名の出席をいただいておりますので、職業能力開発審議会条例第5条第2項の規定に基づき、会議は有効に成立していることを報告いたします。 なお本審議会につきましては、情報公開条例第19条の規定により「会議

	<p>は原則公開するものとする」と規定されていること、また議題に非開示情報が含まれておりませんことから、公開するものとして進めてまいります。</p> <p>それではこれ以降の議事の進行は田邊会長にお願いいたします。田邊会長、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
<p><b>田邊会長</b></p>	<p>田邊でございます。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>本日議題になっている、第11次宮城県職業能力開発計画並びに宮城県立高等技術専門校の再編整備計画、ともに順調に来ていると昨年伺っておりまして、本年もそうだと思いますけれども、より良いものにするために、今日は活発な御議論をいただければと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは早速ですけれども議題に入らせていただきます。第11次宮城県職業能力開発計画の取組状況について、事務局から説明願います。</p>
<p><b>熊谷課長</b></p>	<p>改めまして、課長をしております熊谷でございます。どうぞよろしくお願いいたします。着座にて説明をさせていただきます。それでは取組状況について御説明申し上げます。</p> <p>まず初めに、今回新しく就任いただいた委員もいらっしゃいますので、A3版の資料2-1、「第11次宮城県職業能力開発計画の概要」により、計画の主な内容について御説明いたします。</p> <p>資料の左上を御覧ください。まず「1 計画のねらい」については、職業能力開発をめぐる経済情勢や社会環境の変化に対応し、県内産業の持続的な成長を支える産業人材を育成するため、計画を策定し、施策の推進を図っていくこととしております。</p> <p>「2 計画の位置付け」については、職業能力開発促進法第7条の規定により、国の計画に基づき、県の職業能力開発の基本となる計画として策定したことになります。</p> <p>「3 計画期間」については、令和3年度から令和7年度までとしております。</p> <p>「4 計画の進捗管理」については、各施策の取組状況や事業実績等について、本審議会で見解を伺いながら、PDCAサイクルによる進捗管理を行うこととしております。</p> <p>次に資料の中央を御覧ください。基本的方向性・施策については4つの柱を掲げてございます。</p> <p>「1 県内産業の持続的な成長を支える産業人材の育成」では、富県宮城を支える県内産業の持続的な成長促進のために、地域のニーズを踏まえた産</p>

業人材の育成・確保を図ることとしております。

「2 時代や環境変化に対応できる産業人材の育成」では、デジタル化の進展や技術の急速な進歩、普及に対応できる専門性や創造性を持つ産業人材の育成を図ることとしております。

「3 県民一人ひとりが活躍できる職業能力開発の充実」では、少子高齢化の進展による生産年齢人口の減少や、職業人生の長期化等を踏まえ、多様な人材が活躍できるよう、職業能力開発と就職支援に取り組むこととしております。

「4 技能の継承と振興」では、熟練技能者の高齢化や若者のものづくり離れがみられる中、長年培われた技術・技能を若者に継承することや、技能者の意欲向上のため、技能の振興を図ることとしております。

これら4つの柱の具体的な取組については、資料の右側にそれぞれ記載したとおりでございます。計画の概要についての説明は以上となります。

それでは、議題である第11次宮城県職業能力開発計画の取組状況として、令和6年度の実績等を御説明いたします。A3版の資料3-1を御覧ください。この資料は先ほど御説明した計画の基本的方向性・施策の4つの柱に沿ってとりまとめてございます。

左上の「1 県内産業の持続的な成長を支える産業人材の育成」では、地域産業を支える人材の育成・確保、地域のニーズを踏まえた公的職業訓練等の実施、企業・業界団体等における人材育成の支援に取り組みました。

主な実績といたしましては5つほど掲げてございますが、「1 社会人との対話によるキャリア発達支援事業」において、県内の児童・生徒を対象とし延べ45校、1,428人の参加を得て社会人との対話プログラムを行ったほか、「2 『地学地就』産業人材育成事業」や「3 ものづくり企業見学会」などを実施いたしました。また、若者の採用や採用後の育成、技能の向上が一層難しくなっているという情勢の変化を踏まえ、令和6年度からは新たに「4 ものづくり産業技能向上・人材育成支援事業」や「5 ものづくり企業奨学金返還支援事業」を開始しております。

基本的方向性1の指標項目は表に記載した2項目となっております。上段の「リスクリング・リカレントを目的としたプログラム件数」ですが、これは本県が運営主体となり産学官の人材育成関係機関等で構成する「みやぎ産業人材育成プラットフォーム」において、構成団体が実施しているリスクリング・リカレントを目的としたプログラムの件数となっております。現状値である令和6年度の実績は67件となっており、計画の最終年度である令和7年度の目標値、こちら63件でございますが、これを上回る状況にあります。引き続き関係機関と連携しながら、地域のニーズを踏まえたプログラ

ムを検討し実施してまいります。下段の「高校生の県内製造業就職率」は、現状値が35.9%と目標値に向け順調に進んでいるところです。引き続きものづくり企業見学会など様々な施策を通じて、ものづくり産業の認知度向上を図り、県内製造業への就職を促進してまいります。

次に資料の左下、「2 時代や環境変化に対応できる産業人材の育成」では、社会の急速なDXの進展を踏まえ、時代や環境の変化、新たな技術革新等に対応できる人材の育成に取り組みました。

主な実績としては、高等技術専門校において新規学卒者、既卒者、在職者向け職業訓練を実施したほか、再就職を希望する方向けに民間教育訓練機関に委託して職業訓練を実施するなど、ITをはじめとした産業人材の育成に取り組んでいるところです。

基本的方向性2の指標項目としては、表上段の「離職者等再就職訓練におけるIT関係の受講者数」については、受講機会を増やすため前年度よりも3コース多い訓練計画を策定したものの、受講者数は460人と初期値の539人よりも下回っている状況でございます。多くの方が受講できるよう、ハローワークなど関係機関と連携しながら、引き続き積極的に取組を進めてまいります。下段の「職業訓練指導員研修受講者数」については、高等技術専門校等に勤務する職業訓練指導員を職業能力開発総合大学校などが主催する研修に、令和6年度は延べ22人を派遣いたしました。新たな技術革新に対応できる人材育成を実施するため、今後も計画的・体系的な指導員研修に取り組み、指導員のスキル向上を図ってまいります。

次に資料の右上、「3 県民一人ひとりが活躍できる職業能力開発の充実」についてです。具体的には、非正規雇用労働者、女性、若者、中高年齢者、障害者の職業能力開発や、外国人労働者、就職氷河期世代等への支援を行いました。

主な実績としては、離職者等に対し、再就職に必要な知識・技能の習得を支援するための離職者等再就職訓練において、育児・介護と両立しやすいコースなどの訓練をはじめ、多様な人材が活躍できるよう、高等技術専門校や宮城障害者職業能力開発校において職業訓練を実施しております。

基本的方向性3の指標項目としては、表上段の「育児等との両立がしやすい離職者等再就職訓練の設定コース数」については、目標値が9コースのところ令和6年度は3コースの実施となりました。初期値の5コースと比べても減少している状況となりますが、令和7年度においてはeラーニングコースの計画数を増やすなど、多様な生活環境の方々への支援に取り組んでおります。下段の「離職者等再就職訓練受講者の就職率」については、目標値が82%のところ現状値は76.6%で、初期値の78.4%と比較しても減

少している状況でございます。今後も離職者の就職率の向上に向け、宮城労働局やハローワーク等の関係機関と連携しながら、求職、求人双方のニーズを踏まえた訓練機会の提供と就職支援に取り組んでまいります。

最後に資料の右下、「4 技能の継承と振興」についてです。ここでは技能の評価と卓越した技術・技能の継承を支援するとともに、技能尊重気運の醸成に取り組ましました。

主な実績としては、若者の技能向上を支援する「ものづくりマイスター事業」や「みやぎクラフトマン21事業」を行ったほか、技能五輪全国大会の参加選手に対する支援や「みやぎ学生自動車整備技能コンクール」等を実施しております。

基本的方向性4の指標項目である「技能検定申請者数」については、目標値が2,600人のところ現状値は2,085人で、初期値の2,571人と比較しても減少しております。この受検者数については、近年では平成28年度をピークに減少傾向となっており、特にコロナ禍や、令和4年度から減免対象者が従来の「35歳未満」から「25歳未満の雇用保険被保険者」に変更された影響を受けております。令和6年度には、在校生を含む若年者の入職促進措置として、減免対象が「23歳未満の全ての3級受検者」に変更されましたが、令和7年度は2,026人に留まる見込みでございます。引き続き技能検定広報パンフレットを県内高校等へ配布するなどにより周知に努めるとともに、技能検定を実施している県職業能力開発協会と連携しながら、技能検定制度の普及促進に取り組んでまいります。

次に資料3-2を御覧ください。第11次宮城県職業能力開発計画の令和6年度取組事例について御紹介いたします。こちらの資料につきましても計画の基本的方向性・施策の4つの柱に沿ってとりまとめをさせていただきます。

まず資料の左上、基本的方向性1のうち、上段の「社会人との対話によるキャリア発達支援事業」を御覧ください。この事業では児童・生徒が社会人と対話するプログラムを実施しており、特に小学生に向けては、ものづくりなどの体験を通じた対話の取組を行っております。写真にあります穴あけ体験のほか、オルゴールの製作、ロボットプログラミングの実施、VRによる溶接体験などを通じ、参加した児童・生徒の82%が「働くことの喜びや価値に気づきがあった」と回答をいただいているところでございます。

次にその下の「ものづくり産業技能向上・人材育成支援事業」については、令和6年度から新たに開始した事業となっております。県内ものづくり企業における技能者の技能向上、若年技能者への技能継承による人材育成等を支援するため、技能向上のための社内の風土体制づくりや実践的な技能継承の手法等を学べるセミナーを開催いたしました。参加した企業からは「参考

になった」「社内でも活用したい」といった声をいただいております。

次に資料の左下、基本的方向性2のうち、上段の「高等技術専門校における職業訓練」を御覧ください。県内の高等技術専門校では、主に新規学卒者を対象に、ものづくり産業への就職に必要な知識、技能の習得を目的とした職業訓練を実施しております。例えば仙台校の機械エンジニア科では、CNC工作機械による機械加工の技能習得や、CADによる設計・製図に係る訓練を実施しており、NC工作機械オペレーターや生産ラインに関する保守管理技術者を育成しております。

次にその下の「在職者訓練」では、各高等技術専門校において、主に中小企業で働いている方を対象に、業務効率化等のスキル習得を目的とした在職者訓練を実施し、各地域の訓練ニーズに対応したリスクリングの機会提供に取り組みました。令和6年度はドローン入門、RPA入門、機械加工技術等のコースを実施したほか、白石校では地元企業の要望を受けオーダーメイド型訓練を行うなど、企業の人材育成を支援しているところでございます。

次に資料の右上、基本的方向性3のうち、上段の「宮城障害者職業能力開発校における職業訓練」を御覧ください。同校では障害者の障害特性やニーズに応じた職業訓練や就職支援を実施しております。令和6年度からは普通課程の対象者に精神障害者等を含めることとし、訓練の更なる拡充を図った結果、普通課程の入校率は前年度の25%から75%へ上昇いたしました。また、令和6年度から、県外市町村を含む複数の自治体広報誌に訓練生募集案内を掲載するなど、入校率の改善に向けて取り組んでおります。その他、校の訓練生が全国障害者技能競技大会、いわゆる全国アビリンピックに出場するなどの嬉しいニュースがございました。

次にその下の「離職者等再就職訓練」においては、令和5年度に引き続き訓練科の新設を行い、育児や介護等の事情で通所訓練の受講が困難な方等を対象として、自宅で訓練を受講できるeラーニングコースを実施いたしました。また令和6年度から、宮城労働局及び独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構宮城支部とともに、公的職業訓練に対する関心と理解を深めていただくイベント「ハロトレまつり」を開催しております。

最後に資料の右下、基本的方向性4のうち、上段の「ものづくりマイスター事業」を御覧ください。ものづくりの高度な技術と経験を有した「ものづくりマイスター」を高校や中小企業へ派遣し、実践的指導により技能検定試験の受検支援につなげたほか、市民センター等でものづくり体験教室を開催するなど、次代のものづくりを担う人材の育成に努めました。

その下の「みやぎクラフトマン21事業」は、県教育庁と連携し、工業高校等の生徒に対して、企業等の熟練技能者による実践的な指導や現場実習な

	<p>どの機会を提供することで、高校生の技能向上を支援しております。例えば主な取組として、仙台城南高校の生徒が、資格試験の候補問題などを題材とした技術的・実践的な指導を受けたほか、気仙沼向洋高校の生徒が、地元企業において実際の自動車整備・板金などの現場実習を体験するなど、ものづくりの分野における技術・技能の習得を支援いたしました。</p> <p>第11次宮城県職業能力開発計画の取組状況についての説明は以上でございます。</p>
田邊会長	<p>ありがとうございました。それではただ今の事務局の説明に対して、御意見、御質問などございますでしょうか。</p> <p>この計画は、色々な環境の変化が想定される中で、その変化に応じて適切に対応していくとすることができるようになっておりまして、その辺りがきちんに対応されていると感じました。また、指標項目の目標値や現状値といった数値について、資料に記載いただいておりますけれども、目標を達成する、しないといったことももちろん大事なことなのですが、どちらかということ、目標を達成したかしないかによって、その要因を皆で認識しようということで設定されたものですので、そういった形で見えていただくとよろしいかと思えます。新しく就任された委員もいらっしゃるので、確認の意味を込めて申し上げました。</p> <p>それでは、この審議会では、性質上、色々なお立場からの御意見を伺っていきたいと思いますので、順次御指名させていただければと思います。恐縮ですが谷垣委員からお願いできますか。</p>
谷垣委員	<p>会長からお話があったように、指標項目の現状値が初期値より下回っていたりとか、そういうところもあるのですが、その要因のところをもっと詳しくお聞きしてみたいなと思いました。</p>
田邊会長	<p>特にどの辺りについてとかがございますか。</p>
谷垣委員	<p>全部といたしますか、資料3-1の1では伸びているのですが、2、3、4に関しては全て下回っていて、御説明を聞いて何となくこういった要因なのかと感じる部分はあったのですが、もう少し詳しくお伺いしたいと思います。</p>
田邊会長	<p>それでは事務局の方から補足説明があればお願いします。</p>

熊谷課長	<p>御質問ありがとうございました。資料3-1の取組の1については順調な推移でございますが、2、3、4については不十分だと認識してございます。</p> <p>まず2において、表の上段の離職者等再就職訓練におけるIT関係の受講者数については、国を挙げてのデジタル化の推進、DXの推進ということも踏まえまして、県のこの訓練においても計画数を増やしてなるべく多くの方に受講していただくという取組をしているところでございますが、御覧のとおりの数値になっているところでございます。</p> <p>次に3では、表の上段の「育児等との両立がしやすい離職者等再就職訓練の設定コース数」については、こちらも離職者向けの取組でございます。2の方は受講者数、3の方は設定コース数を指標にしておりますが、初期値を下回っている大きな要因としては共通していると思っております。これは労働市場の環境が大きいと認識しているところでございます。我々の思いとしては、訓練は無料で受講できるものでもございますし、求職者の方が、しっかりとした公共の訓練で技術を身に付け、より良い条件で社会に生きて活躍していただきたいという思いで設定しております。しかし、現在は売り手市場ということで、目の前に比較的良好な条件の仕事があると、訓練を経ずに職に就いてしまうというようなことがあろうかと考えております。</p> <p>デジタル化の推進もそうですが、3の育児・介護等を行っている方を主な対象にしておりますコースについては、受講者が受講しやすいよう、訓練時間を1時間繰り上げて終了するものを多く設定しようということで、計画策定時には目標値を立てたところでございます。なるべく多くコースを設けたいということで努力をしてきたところなのですが、1時間の差というのが不十分なのかどうなのかというところにはありますけれども、受講を希望される方が少ないという現状がございまして、その需給バランスを見ながらコースを設定しているものですから、このような状況になっているところでございます。</p>
田邊会長	<p>よろしいでしょうか。追加の御質問があればお願いします。</p>
谷垣委員	<p>ありがとうございました。</p>
田邊会長	<p>確かに、若年労働者の不足などについては従来の環境認識でもございましたが、この計画を作った時点ではここまで人手不足が強く出てくるとは、想定していなかったというところもあるという気がいたします。</p> <p>それでは、野口委員いかがでしょうか。</p>

野口委員	<p>色々な施策をされていらっしゃるで大変お疲れ様です。私も伺っていて気になったところが谷垣委員と同じところでして、特に3の「育児等との両立がしやすい離職者等再就職訓練の設定コース数」というところです。1時間ほど繰り上げてというようなお話もございましたが、1コースを実施するに当たって、通常だと例えばどのぐらいの期間続いて、いわゆる修了というようなことになるのかということをお伺いいたく、質問させていただきます。</p>
田邊会長	<p>では事務局の方からよろしくお願いします。</p>
熊谷課長	<p>こちらの両立がしやすい訓練コースについては、3か月で実施させていただいているところでございます。他に6か月のコースもあるのですが、期間が長くなると受講者の負担も大きくなるということもあるため、こちらについては3か月で実施させていただいています。</p>
田邊会長	<p>野口委員、よろしいですか。もう少し詳しい内容についてお聞きになりますか。</p>
野口委員	<p>全てeラーニングで御自宅から講座を受けるという形になるのでしょうか。</p>
熊谷課長	<p>通所のものとeラーニングのものがございまして、通所のものはなかなか人が集まりにくいというところもございましたので、今回、eラーニングのコース数を増やしたところでございます。皆様それぞれの御事情があるかと思うのですけれども、eラーニングの方で受講していただくという思いで実施したものです。</p>
野口委員	<p>ありがとうございました。</p>
田邊会長	<p>ちなみにこのコースでは具体的にどういったことを教えているのでしょうか。</p>
熊谷課長	<p>両立がしやすい訓練コースについては、基本的なITのPC基礎スキルを教えています。やはりそういったパソコンの基本的な技術が使えないとなかなか収入につながらないというところがございますので、それほど高い技能ではなく、取り組みやすいものを設定させていただいております。</p>

田邊会長	<p>分かりました。それでは佐々木委員の方からお願いします。</p>
佐々木委員	<p>ポリテクセンターの佐々木でございます。先ほどの離職者等再就職訓練の御説明でお話のあった、D Xにつながるデジタル系、I T系の訓練に関して、私どもの職業訓練施設においても、国の施策にもありますとお力を入れていかななくてはならないということで取り組んでいるところですが、宮城県さんと同じような状況になっております。ここ数年間、入所者の年齢構成が高くなってしまっているということもございしますが、若い離職者の方はS N Sを活用して自助努力でより良い就職先を見つけられているといった現状もあって、なかなか訓練の方に目が向かないと、そういった傾向を私どもも把握しております。そのため、お互いだいぶ苦勞されているのかなということで、今後とも協力体制をよろしくお願ひしたいと思ひます。</p> <p>私どもの方も、D Xにつながるデジタル技術に対応したものづくり分野の職業訓練を2科設定しております。また、私どもは、毎年夏頃に企業に対するニーズ調査を行い、就職先企業の即戦力として活躍できるように、カリキュラムの見直し等を行っております。ニーズ調査によりますと、やはり宮城県内の製造業系の企業におけるI o TエンジニアとかI Tエンジニアなどの需要が、近年着実に高まっている傾向があるということが確認できております。</p> <p>また、ハローワークさんとか求人サイトのデータを見ますと、I o T関係とか組込系の求人も常時一定数は存在してございまして、特にデジタル系の中ではW E B系の求人が圧倒的に多いような傾向が見られます。またデジタル系の関連企業が求める年齢層については、ニーズ調査によりますと、かなりの技術力があって即戦力として採用する方は特に年齢は問わないとおっしゃっているのですが、基本的に3 5歳を境として、それよりも若い方を採用する傾向があると伺っております。</p> <p>一方で、先ほど冒頭で御説明させていただきましたとおり、私どもの施設に入所された受講生は年々中高年齢層の方が増えてございまして、ここ2年間でデジタル技術に関連する2つの科の平均年齢が2歳から5歳ほど高くなっており、入所者の中には5 0代後半から6 0代前半の方も入所されている現状もございします。このため、中高年齢層の方も再就職は何とかできてはいるのですが、デジタル系の関連就職がなかなかできないということで、最終的には他の職種を探すなど幅広い就職活動を余儀なくされている方も多くなってございします。特に私どもの施設では、デジタル系の関連就職率が例年7 5%前後で推移しているのが、今年度1 2月末現在で5 0%前後に落ち込んでしまっているという現状もございします。おそらく感觸として宮城県さんの方も</p>

	<p>同じような状況になっているのではないかと思います。例えば、訓練受講生の年齢構成とか関連就職のところで、やはり私どもの職業訓練施設と同じような傾向になっているのかどうか、もしお分かりということであれば教えていただければと思います。</p>
<p><b>田邊会長</b></p>	<p>では事務局からお願いします。</p>
<p><b>熊谷課長</b></p>	<p>ありがとうございます。我々の方では、高等技術専門校の普通課程で1年ないし2年の職業訓練を実施しているほか、同じように離職者の方を対象に、先ほど少し数値が伸びていないと御説明申し上げましたが、離職者向けの訓練をさせていただいているところでございます。</p> <p>私、3月まではデジタル人材の育成などを行っている課におりましたので、そちらの経験も踏まえての話になりますけれども、佐々木委員がおっしゃったのは、デジタル技術を身に付けた方が、デジタル人材としてではなくて一般企業にお勤めになられるというお話でございました。一般企業においても、社内人材がないからデジタル化が進まない、DXに取り組めないという話もありますので、その方のデジタル技術を買われて就職されているのであれば嬉しい限りだと伺っていたのですけれども、おそらくはそうではないというお話であったかと思えます。</p> <p>それから年齢構成、あるいは就職率ということですが、高等技術専門校は総じて就職率は非常に高いということで、90%の半ば位の就職率を現在も継続しているところでございます。デジタル人材につきましては、普通課程では白石校のプログラムエンジニア科が該当しておりまして、定員20名で養成をさせていただいております。白石校に限らず、各訓練校も地域あるいは地域の業界団体と連携しながら訓練をしているところでございますので、このプログラムエンジニア科の関係につきましても地元企業からかなりのラブコールを受けて、ぜひ毎年人が欲しいといった話も白石校の方に寄せられたりしておりますので、基本的にはそのプログラム関係の学生についてはそういったIT企業の方に勤めていると認識をしております。</p> <p>離職者の方については、先ほどもIT、PC基礎というお話を申し上げましたけれども、基本的な素養としてのデジタル関連の技術育成には努めているのですけれども、そこですぐに就職に直結するかということではない部分もあろうかと思えますので、具体的な数字は申し上げられませんが、高度な人材は高度な人材として伸ばしていきながらと思っております。しかし、先ほども申し上げましたとおり受講者数が伸び悩んでいるという苦しさはございますので、連携しながら取組を進めていければと考えております。</p>

佐々木委員	<p>ありがとうございます。年齢的な部分について、特に委託訓練の場合は高齢者の方が増えている現状というのはあるのでしょうか。</p>
熊谷課長	<p>はい。数字は申し上げられませんが、担当者からも高年齢層が増えているという話は耳にしております。</p>
佐々木委員	<p>ありがとうございます。やはりそういった状況から、関連企業に結びついていられる方も中にはいらっしゃるものの、トータル的に見ると関連企業につながるケースが少ないのかなと感じました。私どもの施設も同じような現状でございますので、県でも同じような現状なのだろうかということで質問させていただきました。</p>
田邊会長	<p>ありがとうございます。一口にデジタル人材と言っても、デジタルの内容が、ひょっとしたら専門分野とか年齢構成とかによって、レベル感というか内容が少し違ってくるのかもしれないですね。それが就職にも影響を与えて、かたや人手不足でというところが噛み合って、なかなか上手く整合的に回っていないというところがあるのかもしれない。大変良い質問をいただき、ありがとうございました。</p> <p>それでは、佐藤特別委員お願いできますでしょうか。</p>
佐藤特別委員	<p>宮城労働局の佐藤と申します。私どもの方ではハローワークを管轄しておりますので、職業訓練の受講生のあっせんという部分、送り出しの部分で県さん、それから高齢・障害・求職者雇用支援機構さんの方に受講生の送り出しをしているというところになります。先ほど熊谷課長からお話があったとおり、労働市場の状況、求人倍率が高い状況もあり、訓練を受講するよりもやはり就職へ動く動きが見られるところがございます、なかなか送り出しの人数も計画のとおりに進んでいないというところはございます。</p> <p>そういう状況もございますので、主にデジタル分野の訓練についてになるかと思えますけれども、まずは私どもハローワーク職員が、求職者の方に訓練の内容を具体的に説明できるように、職員の知識向上といったところで今力を入れて取り組んでいるところでございます。具体的な説明をすることで、より訓練を受講したいと思っていただけるような方が増えるように取り組んでいければと思っています。それから説明会や、先ほどお話のありましたハロトレまつりなどのイベントで職業訓練をより多くの人に知っていただいて、訓練の受講者を増やす取組というのも続けていければと考えているとこ</p>

	<p>ろでございます。以上でございます。</p>
<p><b>田邊会長</b></p>	<p>事務局の方から何かございますか。</p>
<p><b>熊谷課長</b></p>	<p>今、佐藤特別委員の方からお話のあったハロトレまつりですが、資料3-2の右上の方に写真を載せているところでございます。令和6年度から開始した事業ということで、労働局、高齢・障害・求職者雇用支援機構、県が一体となつての開催でございます。今年は仙台駅東口の近くの非常に良い場所を会場として押さえていただき、開催させていただきました。開始前なのに20人位の方が開場を待っているような状況でしたので、15分前倒して開始したという状況がございました。</p> <p>約130人の方に参加していただいて、こちらは高等技術専門校もブースを出してPRもさせていただいたところですが、離職者の訓練を実施している民間事業者の方々もブースを構えていただきまして、トータルで13のブースを構えたのですが、業種が違ふようなものが当然あるのですが、来場者の方は、様々なブースで訓練内容や習得できる技術について熱心に聞いていらっしゃいました。私も足を運んで様子をしばらく眺めていたのですが、非常に良いイベントだと思っておりますので、こういったことを通じて訓練生の数を増やしてまいりたいと考えております。</p>
<p><b>田邊会長</b></p>	<p>ありがとうございます。それでは次に小林委員の方からお願いします。</p>
<p><b>小林委員</b></p>	<p>技能の継承と振興に関してですが、ものづくりマイスターに関しましては、資料3-1の右下に書いてありますように実技指導事業所9件、教育機関13件、民間施設等7件ということで、延べ3,400人に近い人数を対象にして実施しました。</p> <p>2番目の技能五輪全国大会なのですが、11種目14人出場し、金賞1人、銀賞2人、銅賞2人、敢闘賞3人ということで、人数が少ない割にはかなりの好成績ではないかと思っております。私はここ3~4年、技能五輪に出ているのですが、関西の方は大企業がもう本当に大きいんですね。それで1県当たりですと100人近いような人数で出てきておりますので、地方でそこへ割り込んで入賞するというのは大変難しいのじゃないかという感じを受けるのですが、もう企業が選手を送り出してきていますので、お金のかけ方も全然違いますし、地方というか、東北・北海道辺りになると、なかなか会場から遠いということもございます。そういう状況にあって、今回、去年10月に参加した際は好成績を上げたと言えるのではないかと</p>

	<p>とっております。</p> <p>3番目の「みやぎ学生自動車整備技能コンクール」におきましても、4団体12人が出ております。結構良い成績を出していると思います。これは仙台校でもかなり古くからやってきた事業でありますので、そういう基盤があるのではないかとっております。</p> <p>4番目の「みやぎクラフトマン21事業」なのですけれど、131のプログラムを実施し、学生も5,027人、協力企業も229社ということで、熟練技能者による実践的な指導や現場実習などの機会を提供し、若者の技術・技能の習得を支援してまいりました。</p> <p>5番目に職業能力開発関係の表彰を行っております。宮城の名工10人と青年技能者11人の表彰、職業能力開発関係で25件の表彰を行いました。そういったものを基盤に、今後さらなる技能の継承と振興に努めていきたいと考えていますのでよろしくお願いいたします。</p>
<p><b>田邊会長</b></p>	<p>ありがとうございました。技能の継承と振興を中心に補足的に御説明いただきました。この点について何か御質問等ございますか。では次に後藤委員よろしくお願いいたします。</p>
<p><b>後藤委員</b></p>	<p>私の方からお礼方々、技能の継承と振興という点に関してお話させていただきます。先日1月17日、ポリテクセンターの御協力をいただきまして、第15回宮城県高等学校溶接技術競技大会が開催されました。今年は12校、選手が41名、これは全国でもトップクラスの規模でございます。県知事賞や県議会議長賞やら県教育委員会教育長賞をいただきまして本当にありがとうございます。生徒たちを鼓舞する上では、賞というものがとても大事になってまいりますので、ぜひよろしくお願いいたします。賞をもらう方にとってはすごい励みになって、生徒たちもとても喜んでおりますので、その点御理解いただければと思います。</p> <p>さて、若年層の人材育成ですが、いつも申し上げるように、人材育成という4文字で片付く言葉でございますけれど、本当に泥臭くて地道な活動でございます。震災の前から始まって1年休みまして、やっと15年です。全国でも5、6番目ぐらいの早さで宮城では始まっております。この大会に出た子どもたちの結構な数がそういったものづくりの会社に入ってくるものですから、すごい有意義な大会になっております。この溶接業界のみならず、他の団体さんも大会をやるという労力も要るし、色々な手続きとかも大変なのですけれど、できればこういったことを色々なところでしていただけると良いと思います。うちの方の大会なども見て分かるとおりに、汗水垂らしなが</p>

	<p>らやっております、また今年には仙台放送が入ってくれてテレビ放映などもあったので、子どもたちも随分気合を入れてやっております。本当に御協力ありがとうございました。</p> <p>それと資料2-1について、読んでいて気になったところなのですが、中央にある基本的方向性・施策の「1 県内産業の持続的な成長を支える産業人材の育成」という中で、施策1や施策2に「地域」という言葉が出てくるのですけれど、地域とはどういうところを指すのでしょうか。大崎地方とか石巻地方とかそういう地域でしょうか。</p>
熊谷課長	<p>こちらの地域については、特定の石巻などの地域ではなくて、それぞれの個々の地域の地域特性を踏まえた産業という意味合いで使用しております。</p>
後藤委員	<p>日本全体で見れば、宮城県もひとつの地域ではあるのですが、宮城県から見た場合の地域は、要するに大崎地方とか石巻地方となります。高等技術専門校はそもそも地域に根差した技術専門校ということで、5校あったり6校あったりして、あちらが無くなってこちらに寄せたりとかもしていたのですけれど、今回5校を1校にするということで、全国でもあまり例のない統合の仕方をしたものですから、資料2-1の基本的方向性・施策にある「地域のニーズ」というところと少し話が噛み合わなくなっています。「おらほの技術専門校」と言っていたところが無くなるわけですから。</p> <p>そうした時に、資料2-1の右の方に移りますと、取組・事業等の中で「高等技術専門校におけるオンライン訓練の実施」とあります。こちらは結構これから重要になってくるのではないのでしょうか。対面でやるところが4校無くなるわけですので、それを補うためには、やはりこういうところを真剣になって工夫しながら取り組んでいただかないと。そうでないと、取り残された、廃校になった地域の人としてはこれからどうすればよいのかといったところがあります。</p> <p>それと絡みまして、廃校になった地域のその後の問題について、色々な地域とか行政から意見などは出ているのでしょうか。例えば大崎校の跡地をどうしてくれとか。石巻校の場合は出ております。それというのは、石巻市長さんを始め商工会議所からも、審議会があるのだったら一言だけ言っておいてほしいということで今日言われてきました。石巻校がここから無くなった時に、じゃあ更地にして売却するのかとか、あのままにしとくわけないか、そういった意見が出ます。石巻の合同庁舎の場合はいつの間にか公園になっていましたけれど。そういうことで、石巻の高等技術専門校の跡地を、地域の人材育成の場所やものづくりの拠点として何とか使えないのかということで</p>

	<p>動き出しております。深いところはまだ決まっていますが、そのことだけ伝えてほしいということで今日はお話させていただきました。以上です。</p>
<p><b>田邊会長</b></p>	<p>ありがとうございます。御意見としては2つございました。1つは高等技術専門校の統合だけではなくて、学生のためにその後のフォロー体制などをどのように考えたらいいかといった質問と、それからもう1つ、高等技術専門校の跡地をどうするかについてどのように考えているかということでした。こちらいかがでしょうか。</p>
<p><b>熊谷課長</b></p>	<p>高等技術専門校はそれぞれの地域で長く歴史を紡いできたということで、地域の行政や地域の団体の方からも、高等技術専門校が無くなった後における、地元の就業や人の確保といった点について、あるいは技能の継承といった点について、心配の声は以前からもいただいているところでございます。後藤委員からはオンラインを活用した訓練といったお言葉をいただきました。今日は皆さん対面で御参加いただいておりますのでオンラインでの御参加はないですけれども、オンラインで色々なことができるようになってまいりました。ただ実際に機械に触れるのは難しいところではありますけれども、そういったオンラインの上手な使い方というのも含めながら、地域の心配をなるべく払拭できるような取組をしてみたいと考えております。</p> <p>跡地については、色々話題に上ることもございます。ただ、県として、この場所についてはこう使おうというものが明確に決まったところではございませんので、色々引き合いがあればそういった声を聞きながらということになってまいるかと思えます。まだまだこれからという状況でございますので、よろしく申し上げます。</p>
<p><b>田邊会長</b></p>	<p>よろしいでしょうか。それでは次に小野委員の方からお願いできますか。</p>
<p><b>小野委員</b></p>	<p>私、中小企業として建設機械のレンタル業や自動車整備など色々やっておりますが、宮城県では様々な案件で細かいことをやり始めていてありがたいと思いました。しかし、うちの会社は中小企業ですので、なかなか新卒の方は募集しても入ってこないです。それから今いる社員が、年齢が高くなればなるほど心配な部分がいっぱいあって、これからどうしたらいいのだろうと思っています。それから人がなかなかいないので、社員を採っても勉強させるということが難しいです。先輩たちに聞きに行っても忙しいから、1回か2回教えたのだから後は自分で勉強してやってみてということもあります。ただ、今時の子はなかなかそれでは難しいです。そして、そういうことが続</p>

	<p>くと辞めてしまいます。</p> <p>うちの会社ばかりじゃないのですが、基本ができていないと、入ってきた新しい社員さんは本当に苦勞するのだろうなと感じている中で、この職業訓練校というのは本当に素晴らしいと思っています。基本的なものを身に付けて会社に入ってきますので、うちの会社で40代、50代の人でこの訓練を受けて入ってきた人はリーダーになって色々仕事しているのですけれど、それ以降の、入社してから教えなくてはいけないという社員さんがかわいそうだと思っています。</p> <p>そういう意味で、色々なセミナーの開設や人材育成の支援、在職者訓練を実施し各地方の訓練ニーズに対応したリスキリングの機会の提供など、ありがたい話だと思います。こういったものがあればうちの会社でも早速お願いしたいと思いながら聞いておりました。</p> <p>それから、みやぎクラフトマン21事業の中で、インターンシップに参加してという話がありましたが、このインターンシップでは学生は中小企業に来てくれるのでしょうか。大手企業がたくさんいらっしゃる中で、中小企業でも人を一生懸命育てようとしている会社が多くいらっしゃる中で、果たして例えばうちの会社にも来てくれるのだろうかと思うところがございます。</p> <p>高等技術専門校の再編については、以前のように多くの人数は受講できない、一箇所に縮小されるといったことがあり、もったいないと思いながらもなかなか人数が集まらないという部分ではしょうがないのだろうなとずっと考えておりました。</p> <p>少し長くなってしまいましたが、どこの会社さんもまんべんなく人を入れるというのは難しい中で、果たしてどうしたら中小企業が潰れないように人の採用ができるのか、それから、はっきり言うと、こういう学校を出ている学生に、うちの会社に入ってくださいと言っても中小企業はなかなか採れない状況なので、どうしたら採れるのだろうかと思いながら聞いておりました。でも今回、一箇所に集約して、このような素晴らしい中身の取組ができるのはすごいと思っておりましたので、この資料を読ませていただいて、うちの会社でどういったものが利用できるのかということをしっかり捉えて色々挑戦してみたいと思います。これからも中小企業のことをお忘れなくよろしく願いいたします。</p> <p>田邊会長                    ありがとうございます。事務局から何かあればお願いします。</p> <p>熊谷課長                    1つだけ追加で説明させていただければと感じました。資料3-2の左上、1の下段のところでもございますけれども、令和6年度から始めた事業で、今</p>
--	---

	<p>年度2回目の事業でございます。企業の実態として、人が採れたとしても、仕事を教えるべき中間層が業務で忙しい、あるいは具体的に仕事をどのように教えたらいのか分からないという状況がございます。また、若者に関しては、どうやって仕事へのモチベーションを上げたらいいのだろうか、などの様々な技能継承の課題が聞こえてまいりましたので、新たにこういった事業を始めさせていただいたところです。教える側としてはどう教えたらいのだろうか、あるいは教わる側としてはどのように学んだらいいのだろうか、という2つのコースを今年度は設ける形とさせていただきます。募集人員を超えるような応募がありまして、参加者からは、かなり使えるとか学びがあったという声をいただいておりますので、ぜひ来年度はこちらの活用も含めて御検討いただければと思います。</p>
<p><b>小野委員</b></p>	<p>ありがとうございます。参加させていただきます。</p>
<p><b>田邊会長</b></p>	<p>それでは鈴木委員の方からお願いします。</p>
<p><b>鈴木委員</b></p>	<p>お疲れ様でございます。まず人材育成の取組をしていただいているところに敬意を表させていただきたいと思っております。連合宮城とすれば当然採用は重要で、その後の離職を防ぐということも重要ですので、離職を防ぐ環境づくりということも1つのテーマとして取り組んでいるところでございます。</p> <p>まず訓練を受けて、そして会社に入っていくという仕組みは非常に重要であると感じます。私は52歳で、採用されたのが30数年前ですけれども、昔であれば、人の背中を見て育つとか、職人氣質が多かったわけです。今、時代も大きく変わって、そこになかなか付いてこれないという若い方もいるとすれば、こういったところの職業訓練という機会と、ここでの経験というのは多分大きいのだろうなと思っております。</p> <p>そうした中で、いくつか質問させていただきたいのですが、職業訓練で身に付けたスキルをいかして就職している方の人数や、スキルを身に付けたけれどもやはり自分の想像とは少し違ったということで離職をする方の割合とか肌感について、教えていただければと思っております。身に付けた経験をいかしてそこで長く働いていくという時代でもなくなっているのかもしれませんが、そこでより長く働いてその道を目指していくということも非常に大きなテーマではないかと思っておりますので、よろしくお願いします。</p> <p>また、外国人労働者の支援ということで資料3-1の3のところに記載がございましたが、この訓練に参加する割合や就職先での定着率などについても</p>

	<p>教えていただければと思っております。</p>
<p>田邊会長</p>	<p>それでは事務局の方からお願いします。</p>
<p>熊谷課長</p>	<p>1つは早期離職の話だったかと思います。特に今は若年層の早期離職、具体的には3年以内の離職という定義になっているようでございますけれども、全国的には3割以上の方が早期離職をされている状況にあるという統計がございます。それも多くは1年以内に離職をしていると伺っております。高等技術専門校でも、多くはないのですが退校者が出ていたりもします。理由を聞くと、健康上の理由などもあるのですが、自分で訓練科を決めてこういった技術を学ぼうと思って志を持って入ってきていただくわけなのですが、自分には合わないと感じて自信を無くして退校される方もいるようでございます。</p> <p>そして若者の離職、あるいは学校などの退学といったことも含めてなのですけれども、自分が何をやりたいのかということがはっきり分かっている人の方が、そういうミスマッチのようなことが起こりづらいただろうと考えております。この資料でいいますと、資料3-2の左上に、後藤委員にも御協力いただいている「社会人との対話によるキャリア発達支援事業」という事業がございます。ここでは穴あけ体験、オルゴール製作、ロボットプログラミング、溶接などを記載しておりますが、実際の作り方を教えて、ものづくりのプロセスや面白さを理解してもらうということを、地域の色々な会場でやっております。そしてこの事業では、地域の会社の若手社員の方が講師となって、自分はどういう思いでこの仕事をしているのだ、という職業人としての矜持といいますか、思いを語っていただくような形でやらせていただいております。若手社員の方からそういった仕事の面白みということを感じてもらうことで、勤労観・職業観の醸成を図っていくところも我々としては重要だと考え、様々な取組をさせていただいてるところでございます。</p> <p>それから外国人材について、手元には具体的な数値はございませんけれども、業界団体の方と話をした際には、外国人労働者の方について、定着される方も中にはいらっしゃるのですけれども、短期の方は本当にあっという間にいなくなってしまうといった話を聞いております。また、日本人の場合もそうですけれども、外国人の方を雇用するに当たって、また別の費用負担なども生じるけれども、やはりなかなか定着してもらえないという悩みがあるようでございます。私どもの課ではございませんけれども、経済商工観光部の中では、そういった外国人の方がお勤め先の会社に定着できるように、会社としてどういう受入体制を作れば定着してもらえるのだろうかということ</p>

	<p>で、コンサルティングによる支援などもさせていただいております。やはり人材の定着というのは大きな問題になっておりますし、外国人材に頼らなければいけない状況ではありますけれども、県として継続して取組を進めてまいりたいと思います。</p>
<p><b>田邊会長</b></p>	<p>それでは次に齋藤委員をお願いします。</p>
<p><b>齋藤委員</b></p>	<p>J R総連の齋藤です。よろしくお願いいたします。私の方からは、まず資料3-1の3、「県民一人ひとりが活躍できる職業能力開発の充実」というところで、就職氷河期世代への支援という点について、自分も一応就職氷河期世代と言われている年代の人間でして、幸いにして自分は就職が上手くできた口ではあるのですが、やはり今社会的に大きな課題として言われている就職氷河期世代というところにしっかり視点を当てていただいているというところに関して、柔軟に対応していただいているというか、アップデートしていただいているというところが非常にありがたいと感じている次第でありました。</p> <p>また、私も中堅世代になってつくづく感じるころなのですけれども、教える側の実践といいますか、自分の知っている知識をどうアウトプットするのかというところが非常に大きな課題というか難しさを感じております。と言いますのも、長く働いていますとやはり感覚でやっているところも出てきてしましまして、新人さんにどうやったら仕事ができるのですかと言われても、上手く言葉で説明ができないことがあるので、やはりこういうアウトプットをするための学びの場というのは非常に面白い取組だと感じた次第でありました。</p> <p>ただし、職業訓練校の存在というものがどの程度認知されているのかという点については課題かと思えます。自分もこの審議会のメンバーとなったことで、職業訓練校などの存在というものをだんだん知識として知ることが出来ましたし、たまに看板などを見るとこれのことだなと分かるようになりました。すごい良い取組をしているのですけれども、この存在を知らないがゆえに、訓練をする前に就職してしまつて、結果的にミスマッチを起こしているとか技術不足だということに後から気づくということもあると思えます。もう少し広告やCMといったところが上手くできれば、良い方に廻って循環が起きるのではないかと考えますので、そういったところも1つ検討していただければと思います。</p>
<p><b>田邊会長</b></p>	<p>ありがとうございます。事務局の方からお願いします。</p>

熊谷委員	<p>広報について、改善の余地があると感じているところではございます。引き続き、制度などを認識していただいて、より活用していただけるように努めてまいりたいと思います。</p>
田邊会長	<p>ありがとうございます。一通り皆様から御意見伺いましたけれども、その他に何か追加での御質問ございますか。</p> <p>皆様からの御意見を伺う中で、やはり環境は随時変化していくものですから、これまでもそうでしたけれども、今後も環境の変化に柔軟に対応していくということは非常に大事であると思いました。また、この高等技術専門校の教育や人材育成という点について、非常に高く評価されていると皆様からも御意見があったと思いますが、その一方で、最後にお話があったとおり、その存在があまり知られていないということが弱点かと思しますので、そこを取り組んでいくことによってより活用が進めば、高等技術専門校で提供している訓練内容そのものは素晴らしいものですから、より良い形でこの計画が進んでいくのではないかと感じました。</p> <p>それでは次に、その他として事務局から何かありますか。</p>
熊谷課長	<p>事務局からその他といたしまして、資料4「宮城県立高等技術専門校再編整備の進捗状況について」の御説明をさせていただきたいと思えます。</p> <p>県立高等技術専門校につきましては、令和元年度及び令和2年度に本審議会で議論を重ねていただきまして、高等技術専門校が今後目指すべき方向性と施設整備のあり方に係る答申をいただいたところでございます。その後、県におきまして令和3年3月に現在の5校を1校に再編する基本計画、そして令和3年度には実施計画を策定いたしまして、令和10年4月の新校開校を目指して、仙台市宮城野区にあります現仙台校の敷地に集約する再編整備を進めているところでございます。昨年度は既存施設の改修工事を開始いたしました。今年度は施設の新築工事を開始するなど工事は本格化しているところでございます。</p> <p>資料の左上、「1 工事着手前の全体平面図と新設校の配置図について」を御覧願います。図1に工事着手前の全体平面図を掲載してございます。仙台校での訓練を継続しながら、施設の解体工事、改修工事、新築工事等を実施し、将来的には図2のような新設校の配置を計画してございます。図2には工事の進捗状況について記載しているところでございますが、詳細を後ほど御説明いたします。また完成後の各棟に配置される訓練科については、図2の右側に記載しているところでございます。</p>

次に下段左側、「2 工事工程について」を御覧ください。工事工程及び進捗状況について、表の上から順に簡単に説明してまいります。初めに、職員室など本館の機能を果たす仮設校舎の建設工事については昨年7月に完了し、翌8月から供用開始しております。次に、これまで4号館として使用していた施設を6号館として再整備する改修工事につきましては、昨年3月に完了しまして、今年度からこの建物での訓練を再開しております。次に、これまでの3号館を5号館とする改修工事については近々に完了予定となっております。現在は改修工事に伴いまして体育館など別の場所で訓練しておりますが、来年度からはこの建物での訓練を再開することとしております。次に、新築する1号館・2号館について、上の中央の図では青く着色させていただいておりますが、現在、建築工事を進めておりまして、完成後にはこれまでの1号館及び2号館に設置している機械エンジニア科及び自動車整備科の訓練機器等を移設いたしまして、また新たな機器も加えた上で訓練を実施する予定でございます。それから来年度からは、新築する本館・3号館・4号館・7号館について、上の中央の図で白く着色しているところでございますが、こちらの着工を予定しているところでございます。その他、解体や外構などの工事については表の記載のとおりでございます。なお、説明が前後しますが、令和10年4月の新校開校を目指して工事を進めるところでございます。

続きまして、資料の右側「3 イメージパース」は、敷地の南側上空から見た完成後のイメージとなります。

続いて「4 再編後に開校する高等技術専門校の名称について」を御覧ください。再編後に開校する高等技術専門校の名称については、知名度、イメージの向上を図るため、校名を改めるとともに、愛称を定めたいと考えてございます。校名については、県立の職業訓練施設に相応しいものということが大前提になるかと思いますが、再編整備計画の内容を踏まえながら、親しみやすさ、発展性、広報性等の観点から調和のとれた案を県で考えさせていただき、最終的には条例の改正議案として県議会に諮った上で決定する予定としてございます。また愛称につきましては、校名案を提示いたしまして広く県民から愛称案の募集をして決定させていただきたいと考えております。齋藤委員の方からはPRといったお話もあったところでございます。

以上御説明させていただきましたとおり、令和10年4月の開校に向けまして引き続き再編整備の取組を進めてまいります。御理解と御協力のほどよろしく願います。その他に関する説明は以上でございます。

田邊会長

ありがとうございます。それでは本件については色々御意見とか御質問が

<p>後藤委員</p>	<p>ある方から承っていければと思いますが、いかがでしょうか。色々と御意見をいただいている後藤委員、いかがでしょうか。</p> <p>私からですけれど、20年以上インターンシップを受け入れてきた中で、2通りの教え方があるということに気づきました。1つはベテランの職人さんが技を教える。もう1つは、入社して間もない、3年位働いてそれなりの資格を取った子どもたちが、自分より2つ3つ下の高校生に、仕事が好きになっていく過程を教える。そのやり方はとっても有効ですね。それに誘発されてそういった会社に私も就職しましたという子もいます。その2通りの教え方を上手く使い分けていくと、インターンシップの受入企業としてはすごい優秀なのではないかと自分でやってみながら思っていました。</p> <p>国のクラフトマン事業は3年で打ち切りになって、宮城だけが独自で続けてきたということで、「みやぎクラフトマン」という名前を付けたと思います。だから宮城県としてはすごい力を入れていて、そのおかげもあって高校生の溶接技術競技大会などは活発に開催出来ています。やはり下地があれば、それに倣って事業も計画性を持てるので、このみやぎクラフトマンはとても良い取組だと思っています。</p>
<p>小野委員</p>	<p>すみません、少し教えてください。資料3-1の1で、主な実績の5番目の「ものづくり企業奨学金返還支援事業」という事業をもう少し詳しく教えていただきたいです。従業員の奨学金返還を支援するというのは、働いている社員が学校で学んだ時に借りた奨学金を返す際に、会社でそれを支援するということでしょうか。</p>
<p>田邊会長</p>	<p>では、こちらの議題からは少し戻りますが、事務局から、先に小野委員の質問に答えていただき、その後またこの議題に戻りまして、後藤委員の御質問に答えていただくという形でよろしいでしょうか。</p>
<p>熊谷課長</p>	<p>小野委員から御質問いただきました奨学金返還支援制度につきましては、現在、若者の半分位が何らかの形で奨学金を利用しているということで、奨学金の返済に当たっては、経済的な負担はもちろん、心理的な負担も結構大きいと伺っております。こうした状況を踏まえまして、小野委員からも先ほど御意見をいただいておりますが、県内の中小企業さんがなかなか人を採用できないという点を考慮しまして、若手社員の奨学金返還の支援をされる企業さんがいらっしゃるのであれば、県としても企業の支援をしようという事業でございます。制度内容としては、企業の負担する額の2分の1を県で補</p>

	<p>助するというものです。具体的な金額は企業に決めていただきますが、県としては、従業員1人当たりに対して、年間で最大22万5,000円を最長6年間ということで最大135万円を企業に補助させていただくという制度を、昨年度から開始いたしました。</p>
小野委員	<p>会社に勤める前に、職業訓練校だけじゃなくて色々な学校を出ていると思いますが、そこはどのようなのでしょうか。</p>
熊谷課長	<p>大学ですとか専門学校ですとか、そういった教育機関で学ぶ期間に借りていた奨学金を、会社と県が一緒になって応援しようという制度でございます。</p>
小野委員	<p>それはいいですね。やはり返済で苦労している方はたくさんいらっしゃるじゃないですか。それを支援してあげる企業というのは選ばれる企業にもなるでしょうし、お互いに頑張ろうということになると思います。それでは、どこの学校を出ても、そういうお金を借りている生徒さん全体に言えるということでしょうか。</p>
熊谷課長	<p>対象となる奨学金が決まっているところではありますけれども、そういう思いで取組をしているところです。</p>
小野委員	<p>分かりました。どうもありがとうございました。</p>
田邊会長	<p>ありがとうございます。活用価値がありそうな制度ですね。それでは後藤委員の御質問に答えていただくということでお願いします。</p>
熊谷課長	<p>クラフトマンのことをお話いただいたところでございます。こちらに記載しているとおり、教育庁、工業高校などの教育現場と一緒に取組をさせていただいております。これだけの人数に参加していただきまして、何よりも感謝を申し上げたいのは、協力企業延べ229社というところでございます。まさに熟練技能者の方の御協力を得て成り立っている事業でございます。</p> <p>こちらにつきましては、私も工業高校で実施された機会に拝見させていただきましたし、明日も企業の現場でこの事業をやる機会があるということで足を運ぶ予定にしております。齋藤委員からも、感覚で仕事を行っている場合があるというお話がありましたけれども、クラフトマンの中では熟練の技能者の方々が1つ1つのプロセスを丁寧に教えるという作業がなされている</p>

	<p>と理解をしております、こういった取組を継続していくことが未来のものづくり産業を成長させることにつながっていくと考えておりますので、県としては大事な事業として続けてまいりたいと考えております。</p>
<p><b>田邊会長</b></p>	<p>後藤委員よろしいですか。それでは、この高等技術専門校の再編整備関係で、何か御質問とか御意見はございますか。</p> <p>実際に事業が進んでいるところですので、どちらかという御質問が中心ということになるかと思いますが、まだ調整の余地があるところもあるかもしれませんので、御要望とか伺えればと思います。</p> <p>ちなみに、各棟に配置される訓練科等の定員というのはもうほぼ固まっているという認識でよろしいですか。</p>
<p><b>熊谷課長</b></p>	<p>この定員数は再編整備基本計画の中で定めておまして、現在、その定員計画を踏まえながら、配置する機器類の購入などを進めているところでございます。</p>
<p><b>田邊会長</b></p>	<p>分かりました。それから差し支えない範囲で結構ですけれども、今、人手不足の中で建築費も相当上がってきているというのが社会的な動きとしてございますが、この辺りは特に影響はないと考えてよろしいでしょうか。</p>
<p><b>熊谷課長</b></p>	<p>御心配いただいているとおり、建築資材、あるいは労務費も全般的に上がってきておまして、この計画自体も事業費が10億円位上昇するという見込みで押さえているところでございます。国の補助金などによって賄う部分もありますし、県債ということで借金をしながら整備を進めるなど、色々な財源を活用しております。けれども、まずは令和10年4月の開校を目標として定めておしますので、そこを目指して立派な訓練施設として整備することが大事だと考えておりますので、これからも事業費の増加がもしかするとあるかもしれませんが、そこはもう環境の変化ということでしっかりと整備をちゃんと進めてまいりたいと考えています。</p>
<p><b>田邊会長</b></p>	<p>ありがとうございます。では後藤委員お願いします。</p>
<p><b>後藤委員</b></p>	<p>本来、県で打ち出してきたのは仙台校と白石校の2校でしたが、それをあえて1校にしました。最大の理由は少子化がもっと進んで、再編の再編がまたあるのではないかということと、2校に分散するよりは1校にして経費を集中させた方がより良い施設ができるのではないのかという思いもあって、</p>

熊谷課長	<p>1校にしたわけです。資材の高騰とかでお金が上がっていくのは重々承知していますけれど、宮城はあえて2校を1校に集約したのだということで、その辺りもしっかりと認識していただいて、それなりの設備を充実させていただきたいと思っております。</p> <p>あと私、今の石巻校の金属加工科の現有設備以下では駄目ですよということをお願いしてきてきたつもりですが、きちんと守っていただきたい。また、再編後の総合建設技術科というところに全部集約されてしまいましたけれど、金属加工も含めてこの中には鉄筋もあり型枠大工もありで、10人の定員で果たしてどういう教育していくものやらと思っています。あっちもこっちもやって1年過ぎて卒業した時、さっぱり何も使いものにならない、何も分からない子を探ってしまったという話にならないようにしていただきたい。この位の集合体で子どもたちを教えるのであれば、よほど計画性を持たないと本当に何も分からないまま卒業する可能性もあります。また、もしかしてこの10名の中で金属加工をやりたいという子がいたら、さらに専門的にその道を進ませてあげた方が良い場合もあるし、10名のうち7、8人が金属加工に進みたいとなった時に、金属加工をさらに単独の科に昇格させるとか。どこの高等技術専門校でも、金属加工が無くなるということは無いのですよね。今回、初めて宮城で金属加工が無くされてしまいました。メタルワークなどに名前を変えたりはしてありますが、どこの高等技術専門校にも金属加工はあります。群馬県の産業技術専門校は前橋にも高崎にも金属加工が学べる科があります。浜松テクノカレッジもそうです。私、ずっと色々なことを20何年もやってきましたが、絶対に、状況が変われば単独で科に昇格できる位に生徒が集まると考えています。先日の高校生の溶接技術競技大会も、参加した40何人の子どもたちのうち、高等技術専門校に入りたいと言っている子も何人かいます。ただ、石巻校の現有設備以下では駄目だというのは、現在、高等技術専門校は工業高校の機械系とレベルが同じ位だからです。それを念頭に置いて考えていただいて、レベルの高い、質の高い教育ができるのであれば、絶対に金属加工科は復活できると思います。よろしく願いいたします。</p> <p>金属加工科のを中心にお話いただき、大会などで高等技術専門校に入りたいという生徒を見ているというお話や、今後、校舎が新しくなるということも含めて状況が変わってくるというお話をいただきました。今現在としては訓練生集めに苦労しているという実態がございませうけれども、私も後藤委員と同じ考えでございまして、校舎が新しくなりますし、設備類もちゃんと整備してまいります。カリキュラムも充実させようということで今一生懸</p>
------	--

	<p>命検討しているところでございます。また、訓練内容というのは生徒さんと一緒に育っていくものとも感じておりますので、地元根差した職業訓練機関として、より意欲の高い訓練生を迎えられるようにしてまいりたいと思います。それに伴って訓練の内容も充実していくものと感じております。よろしく申し上げます。</p>
<p><b>田邊会長</b></p>	<p>その他に何かございますか。よろしいですか。</p> <p>御意見を伺っていて、再編整備というのは、ある意味で皆様に広く知っていただく機会でもありますので、その機会を捉えていただいて、教育内容の充実もさることながら、多くの方に知っていただき、活用していただくという形が取れればと感じたところです。</p> <p>それではこれで一通り議事は終了ですけれどもよろしいでしょうか。議事を終了させていただきます。円滑な進行に御協力いただきましてありがとうございます。進行を事務局へお返しします。</p>
<p><b>星副参事</b></p>	<p>田邊会長、ありがとうございます。</p> <p>会議録については、議事概要を県のホームページで後日公開したいと考えております。議事概要は事務局で作成し、各委員の皆様に御確認、御了承いただいたものを公開いたします。</p> <p>それでは以上をもちまして、宮城県職業能力開発審議会を閉会いたします。委員の皆様、本日はどうもありがとうございました。</p>